

## 日本医学会分科会活動報告

日本アフェレシス学会理事長  
山路 健

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

日本アフェレシス学会は体外循環を用いた血液浄化療法（維持透析療法を除く）であるアフェレシス療法を共通するテーマとして産学連携で議論を行う場であり非常に特異性が高い学会活動を行っている。共通テーマであるアフェレシス療法を軸として基礎から臨床、研究から実地医療、医工学領域との融合によるデバイス開発までと活動領域は多岐に及ぶ。疾患領域としても神経、膠原病、腎臓、消化器、皮膚、血液、代謝・内分泌、循環器、救急、その他と非常に幅広い分野に亘り他に類を見ない横断的、学際的な学会である。

学術的な成果としては年に1回定期開催される学術大会や年3巻発刊される日本アフェレシス学会雑誌を中心に情報発信している。学術大会の開催都市（大会長の専門領域）は2016年 横浜（腎臓）、2017年 浦安（皮膚）、2018年 岡山（血液）、2019年 京都（消化器）、2020年 浦安（膠原病）と地域性や大会長の専門領域に偏りが生じないように考慮して開催している。また、北海道、東北、関東・甲信越、中部、関西、九州に各地方会組織が存在し年に1回地方会を定期開催している。また、日本アフェレシス学会雑誌においては毎号、テーマを設けて特集とした総説、原著論文、症例報告、エッセイ、学会トピックスなどより構成している（表1）。加えて英文誌 Official Peer-Reviewed Journal である Therapeutic Apheresis and Dialysis については International Society for Apheresis (ISFA)、日本透析医学会と共に発刊母体となっている。

このように本学会は特異性が高く、そして横断的、学際的な学会であり学術的に独立した分科会として存在する意義は大きい。

b. 当該領域における国際的な役割

本邦におけるアフェレシス療法は米国にて行われていた遠心分離法を用いた血漿交換療法が導入されたことが歴史的な起源であるが、1980年代に人工透析療法のために開発された中空糸膜を用いた膜分離法が開発、臨床応用されたことで飛躍的に発展していった。その後、本邦の膜分離法の技術や知識がこの分野において最先端であることが世界的に認識され、以降、本邦がこの分野を世界的に牽引する存在にある。

近年、国際化が進み本邦発のアフェレシス療法が欧州や米国、そしてアジア各国において臨床応用されるなど、本邦の技術や知識が世界各国の医療現場において貢献している。学術的には2019年10月17日～20日に京都（国立京都国際会館）において遠藤善裕大会長（滋賀医科大学医学部看護学科）の下、第12回国際アフェレシス学会を本学会第40回学術大会と共同開催し、本邦初の技術や知識、エビデンスを積極的に世界に向けて発信している。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

アフレスシ療法としては2016年に抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）型急速進行性糸球体腎炎、2018年に抗白血球細胞質抗体（ANCA）型急速進行性糸球体腎炎、2020年に関節症性乾癬の3疾患が過去5年間に保険適用が追加され、現在、35の難病・難治性病態に対して保険収載されており、本療法を広く国民に向けて広報することにより、多くの難病・難治性病態患者に恩恵をもたらすこととなる。さらには2020年に潰瘍性大腸炎患者の活動期における寛解導入を目的に新たな血球成分除去用浄化器、2021年に閉塞性動脈硬化症に対する吸着式血液浄化用浄化器が新しいデバイスとして開発・保険承認されるなど過去5年間で既存治療の適応追加や新規治療の開発・保険承認により医療現場における選択肢が拡大している。また、「アフレスシ療法 診療ガイドライン2021」を発刊することによりアフレスシ療法の専門領域の医療の質を向上させるのみならず、一般の医療従事者がアフレスシ療法を認知することにより透明性が高まり「より良い医療」を医療現場に届ける一助となることが期待される。学会認定血漿交換療法専門医、認定技士制度を有しており学術大会の際に毎年、専門医試験、認定技士試験を行って認定・更新を行うとともに、学会認定施設の認定・更新も行っている。

d. 学会運営上留意している点

- ・新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあり学会として取り組んできた国際化に陰りがあることを受けて、国際化推進委員会を立ち上げて、国際学会での合同シンポジウムの開催や演者の推薦を行うなどして、本邦発の技術や知識、エビデンスを海外に向けて発信することに積極的に取り組んでいる。
- ・2018年に臨床研究法が制定されてから臨床研究や医師主導・企業主導の治験などの臨床試験のハードルが高くなっていることから、臨床研究推進委員会を設立して学会として臨床研究をサポートする仕組みを構築している。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

本学会が主に取り組むアフレスシ療法は広い診療領域に亘る難病・難治性病態患者を対象とする治療であることから、本学会会員の多くは日本医学会分科会に加盟する他学会にも加入しており、基礎から臨床、研究から実地医療といった活動が広い医療領域に亘っていることから、他の分科会との連携なしではあり得ない学際的活動が常となっている。学術大会一つをとっても他の分科会との学術連携を行う形式でシンポジウムやワークショップは組まれている。